

親子支援だより ほっと通信

12月号 No.8 平成29年12月1日 浜松学院大学付属幼稚園

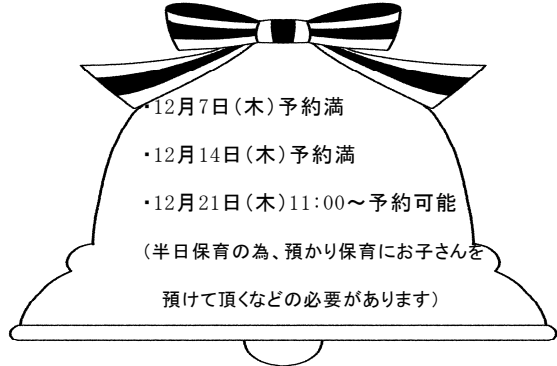
【発行】教頭：山梨明子 【添文】心の相談員：中島祐子

毎日、家事や育児を頑張るお母さんが、このおたよりを読みながら・・・

①ほっとひと息ついて ②ホッと安心し ③ホット（HOT）な温かく優しい気分に含まれますように・・・ いつでも応援しています！共に歩みましょうね！

先日の夕食後のこと。中3の次女が「自分の幼児期を知って感じの宿題なんだけど、私が小さかった時の伝説って何だった？3つ教えて。それから一言で言うとなんか子だったかも教えて」と言いました。我が家の次女はというと…それはそれはヤンチャ娘でしたから、私が「え～伝説なんてたくさんありすぎる！」と言うと、主人がすかさず「まずNo.1は“〇〇家から脱走。近所住民による保護事件”でしょ。それからNo.2が“天井にお絵かき事件”で…」と次から次へと伝説があげられ…。私も「そうそう！」と言いながら詳細エピソードを娘に語り聞かせたのでした。今だから笑いながら話せることもあるけれど、改めて自分の伝説を聞いた次女は「あはは…。すごいね。意外と大変だったんだね」ですって。そして、「幼児期を一言でいうなら？」という質問には「好奇心旺盛。猪突猛進」と私が答えると、主人が「今と変わらないな」と言いました。…本当にその通りなのです。たくさんのいたずらや珍事件を重ねて成長した娘は、今でも「思い立ったら即実行。自分で決めたことはとことんやる」という子です（反面、慎重さに欠けるとか多少の問題は色々あるけど…）そして、なぜ天井に絵を描くに至ったのかという経緯も話してやりました。当時、もうすぐ小学校1年生という長女の部屋に、机の上がベッドになっている学習机が設置されました。次女はその新しい家具（次女にとっては遊具みたいなものでしょうね）に興味津々でした。そして、私が三女のおむつを替えているわずかな時間に、長女の部屋へ入り込んだ次女…。そこからは想像ですが、ちょうど机の上に置いてあったカラフルペンのセットに目を輝かせ（よりによって油性ペン！）それを手にしながら、あこがれのベッドに登り、登ってみたら頭上に真っ白な壁。これはちょうどいい！ここに絵を描こう！…という成り行き（心境）だったと思います。（そして、ペンのセットを片手に持って、よくぞはしごを登ったものだ…！）長女の部屋から物音がしたので、私は三女を抱えて急いで見に行くと…天井に近いベッドの上で、カラフルペンを全色使った天井画を、得意げに見上げた2歳の次女がいるではありませんか！…言葉を失った私に、次女は「お絵かきした～」と満面の笑み…。私はもう笑い崩れるしかない状況でしたよ～でも、そこが大変でした。油性ペンは全く落ちないので、壁紙クロスを買に行き、クロスの張替え作業…。しかし側面と違って天井は難しい！両手両足を使って悪戦苦闘しながら何とか天井にクロスを貼ることができました（笑）…そんなこんなで、「今では楽しい思い出だね～」と親子で話していたのです。そして、後日、次女はそれらの出来事を学校で発表したそうです（汗）子どもから予想外の言動が飛び出すことってよくありますよね。幼稚園でも子ども達のそんな姿に出会うことが多々あります。もちろん物事のよし悪しはきちんと伝えますが、子どもなりになぜそこに至ったか…。その理由を子どもから聞いたり気づかされたりすることが楽しいのです。そして、その時の『子どもの心の動き』を想像することがおもしろくて仕方がないのです。ですから、私は、子どもの心の内に流れる様々な気持ちに、思いを巡らすことができる想像力を絶えず持っていたいなと思うのです。（自分も5歳児という感覚ですが笑）そう思うと、この1年間たくさんの楽しみを与えてくれた子ども達に感謝です！きっとご家庭でも色々な苦労をされながらも、喜びや愛おしさを感じていることでしょう。そんな日常が良いのだと改めて思いますよね！

12月カウンセリング予定

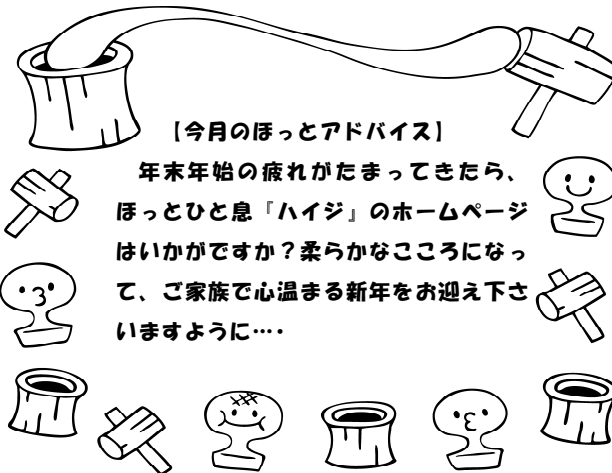


1月カウンセリング予定



少し前に『ハイジ～アルプスの物語』という映画を観ました。世界中で愛されている不屈の名作を生んだ国スイスで、未来の見えない混沌とした時代の今こそ自国の宝であるハイジの物語が必要と実感し、名誉と情熱をかけて実写映画された21世紀版ハイジ…という謳い文句に恥じない心の深みに響いてくる素晴らしい映画でした。4月からほっと通信を読んで下さった皆様への感謝の気持ちを込めて、印象に残ったシーンをお伝えしたいと思います。幼いころに両親を亡くしたハイジは、デーテおばさんに育てられました。ある時山小屋のおじいさんのところに連れて行かれます。人づきあいが苦手で無口で頑固な性格のおじいさんと一緒に住むことになったのです。ハイジは友達になったペーターから“おんじ（おじいさん）は人を殺した”といううわさがあることを聞きます。自分への警戒心の芽生えをハイジに感じとったおんじは、一言も自己弁護することなく「他人のうわさでなくて、自分がどう思うか、どうしたいか、自分で決めなさい」という言葉を投げかけます。扉の前でしばし躊躇したハイジでしたが、ぱっと身を翻しおんじに駆け寄り抱きつきました。丁度黄組の頃の年齢のハイジの心の中が、透き通って見えるようなシーンでした。大人のうわさを信じておんじを避けるのか、本当は優しい人と察知している自分の心信じるのか…。ハイジが自分自身の感性を信頼する道を選んだ時から、おんじも心清らかな優しいハイジに心を開き、ふたりは深い絆を育んでいったのです。天真爛漫な頃のこどもだからこそ、思い煩いのない純粋な心で選ぶことができたのかもしれない。幼な子ほど天使に近いからなのかな…。そんなふうにも思える感動のシーンでした。様々な暗い事件で警戒心を持つ必要も確かにあります。けれども日常の営みにおいては、純粋でまっすぐな心で人を信じたり、大らかで単純な心で仲直りしようとする子ども達の姿に、私たち大人の方が教えられることがいっぱいあるなあ…と感じました。その後、都会で暮らす病弱なクララの話し相手をするために、ハイジは山を離れます。クララが暮らしている祖母は夢遊病のハイジのつらさを見抜き、ハイジの人生が犠牲にならぬよう山に帰らせてくれました。そして今度は、裕福の陰で孤独感ゆえに病んでいた孫娘の本当の幸せのために、クララをハイジのもとに連れて行ってくれ、クララが自分の足で歩ける自立“という奇跡が起きました。ふたりの子どもの内面に潜む寂しさをしっかりと感じ取り、それを満たすことを最優先にしたおばあさまの温かな人間性に胸がいっぱいになりました。将来のことをおばあさまに聞かれたハイジは「作家になりたいけれど、山の学校のみんなが笑うから…」と恥ずかしそうに俯きます。おばあさまは「山の子ども達はここしか知らないからそう言うのよ。あなたは、ここ以外の世界も知っているでしょう？自分が楽しいと思うことは、誰が何と言おうと続けることよ！」とにっこり励ましてくれました。なるほど本当に、私達は自分の体験から何でも決めつけてしまいがちです。多様な物差しを持つために多様な経験が大切であること、他人からの評価ではなく『自分自身が真に楽しい！ハッピー！』と思える感覚』を大事に育てていくことが大切なんだよっておばあさまが私にも教えてくれたのでした。

心の支援員：中島祐子



未就園のお子さんを連れて
カウンセリングに来園される方へ

託児を担当して下さるお母さん（卒園児の保護者様です）がいらっしやいます。どんぐりクラブと一緒にプレイルームや園庭でお子さんを遊ばせながら、楽しく安全にお子さんをお預かりし、親御さんが集中してカウンセリングを受けて頂けるようサポート致します。1回1,000円の実費となりますが、ご希望の方は、**カウンセリング予約時に託児希望も併せてお知らせ下さい。**

◎カウンセリングは守秘義務を厳守します。また、カウンセリングの対象は付属幼稚園の保護者様となります。予約の際は、在園保護者様を優先しますが、空き状況により、未就園児活動に参加している保護者様（当園に入園予定の方）と、当園卒園の保護者様に限り、予約をお受けできます。ご理解の程、よろしくお願いたします。

◎カウンセリングの予約は、幼稚園に電話（☎472-5193）をし、希望の日時をお知らせください。その場で空き状況をお伝えして日時を決定します。1回のカウンセリングは50分間の予定です（幼稚園の会議室で実施します）

